

課題4．子どもと家族へのボランティア活動

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実施活動	<p>1. ボランティア受入状況 子どもと家族の心の安らぎなど、子どもの療養環境改善のため導入。 1) ボランティア受入要領の策定 (H13.11.1) 2) ボランティア募集：あいち小児センターホームページにて募集、県・名古屋市社会福祉協議会等にポスターやチラシで募集 3) ボランティア受け入れ状況 ・登録者数：H17年度新規登録者 44人 全登録者数 117人 ・団体登録数：2団体(小児の森プロジェクト、ともしび) ・ボランティア活動時間：延活動者 955人、延活動時間 2,360時間</p> <p>2. ボランティア活動内容 (Bauen Platz としてグループ化) 外来ふれあい活動：プレイコーナー活動 病棟ふれあい活動：学習・英語ボランティア、イベント 環境さわやか活動：生花の活け込み、園芸、季節の飾りつけ、ミニ水族館活動 こども図書活動：病棟への貸し出し、ブック、絵本の整理、お話し会 どんぐりハウス：リビングの飾り付け 事故予防ハウス：受付、説明 イベント企画協力：行事へ参加 自主グループ活動：21世紀愛知の子ども健康フォーラム協力 アchemeckの森(小児の森)プロジェクト：センター隣の森の小径づくりの会を4回開催</p>
教育・研修	<p>1 平成17年度ボランティア研修会(年5回) ・講演(新規登録希望者と既登録者一緒に受講) ・交流会(新規登録希望者と既登録者の交流) ・初回参加者オリエンテーション ボランティア活動内容紹介、感染症問診票にて結核始め各種感染症への注意・検診の勧め、ボランティア保険</p> <p>講演内容 H17.5.21(土)わくわくチーム医療をめざして 保育士 (参加者35名) H17.7.12(火)こころの健康とボランティア活動 臨床心理士(参加者23名) H17.9.29(木)子どもとめがね 視能訓練士 (参加者13名) H17.11.16(水)聴覚障害をもつ子どもの理解 言語聴覚士 (参加者8名) H18.1.20(金)気になる子ども達の日常生活 32病棟看護師(参加者12名)</p>
情報サービス	<p>ホームページにボランティア募集と研修、オリエンテーション案内の掲載 地域社会福祉協議会へのボランティア募集、チラシ配布 ボランティアニュース発行(年2回)</p>

この事業に関連した実績としての調査報告やパンフレット、インターネット情報

資料の名称	発行日等	資料番号
ACHEMEC の仲間たち - 子どもと家族の心に安心と安らぎを - (ボランティア活動報告集5)	H18年3月	(冊子)

事業項目ごとの評価：子どもと家族へのボランティア活動

<p>評価の方法・手段</p>	<p>1. 登録者数、活動時間 延活動者数、活動時間、継続者数、内容の評価 2. 自主グループ化の評価：ボランティアニュースレターの発行、自主グループ活動の広がり、ミニグループの組織化 3. アンケート調査</p>
<p>評価の概要</p>	<p>1. 有用性 1) ボランティア登録者数、延活動者数、延活動時間数、継続者数、活動別時間数 平成17年度の新規登録者数は、44人で平成16年度(75人)より減少している。実活動者数は、117人、延活動者数は955人で平成16年度に比較して延活動者数は減少している。1日の平均活動人数は4人であったが、曜日により変動が大きかった。活動時間は平成16年度は2,360時間であった。16年度と比較すると非常に減少した。活動別の時間数をみると、子どもの図書活動が時間が昨年度より増加したが、外来アトリウムでの活動時間が大きく減少した。</p> <p>2) 活動内容 17年度に新たに始まった活動は、病棟でののお話し会活動 アトリウムでの音楽ボランティア活動 個別の学習ボランティアなどの活動が広がってきている。これらの活動はほぼ定例化してきている。 の個別学習ボランティアの要望が増加したことに対して、個別学習ボランティアの導入や運用に関してのフローチャート、学習ボランティア依頼表や学習ボランティアを実施するために対象に関わるスタッフ等で共有化できるように、学習ボランティアががんばりますシート等を作成しライブラリーに掲載した。</p> <p>3) 自主グループ化について ・独自のホームページを作成しイベント情報や掲示板運営などを運営 baubau HP : http://www5d.biglobe.ne.jp/baubau/ ・ボランティアニュースレターについては、保健室と協働し年2回発行 ・21世紀愛知の子ども健康フォーラムに参加：手作りのサンタクロースの飾り物などのバザーコーナー ・図書室のボランティアはメーリングリスト作成し、月に2回の活動に当たっての連絡等は図書ボラグループ内で行うようになった。</p> <p>4) アンケート調査 継続の意志確認と希望活動内容などの調査を実施</p> <p>2. 問題点 外来プレイコーナーは、曜日によりボランティアさんが多くいる時と少ない時の片寄りがあった。全体的には、活動する上でボランティア同士の連携や情報交換などが必要であるが、ボランティア同士の横のつながりが徐々に出来つつあり、BAU メーリングリストによって連絡等はかなりタイムリーに実施できつつある。今後も引き続き図書ボランティア活動のように活動場所毎のグループ化をはかっていき横のつながりが出来るような支援が必要である。センターとグループとの連絡をスムーズに図っていくことやセンター内でのボランティア活動のシステム化を図っていくことが重要である。</p> <p>3. 業継続に関する意見 外来を受診する子どもや家族から、ボランティアがいることによる安心感、療養環境改善への感謝の声が届いている。外来内容の充実に合わせ、職員全体はもちろん外来での部署担当者からのボランティアへのサポートに力を入れ、自主活動として継続できるようにしてゆく必要がある。 また、子ども図書室や患者家族宿泊施設の運営、ボランティアをコーディネートする事務作業など、今後の充実を図ってゆきたい。</p>

